

第 4 回 総合計画審議会（共生分科会） 議事要旨

日時 平成 22 年 4 月 6 日（火）午後 3 時 00 分～5 時 00 分

場所 横須賀市消防局庁舎 4 階災害対策本部室

出席委員 吉川智教委員（座長）、加藤茂雄委員、青木康太委員、原田昭一委員
木村武志委員、木村忠昭委員、小林康彦委員、高須和男委員、高山英夫委員
（以上 9 名）

事務局 横須賀市都市政策研究所 福本政策担当課長、小澤主査、檜山主任、山中主任

傍聴者 市民 2 名

議事内容

1. 報告事項
2. 審議事項
3. その他

1. 報告事項

（1）第 3 回総合計画審議会（共生分科会）の議事要旨について
（事務局）

－資料 1 説明

（2）第 3 回総合計画審議会（共生分科会）意見について

－資料 2～4 説明

（3）横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会（平成 22 年 3 月 24 日開催）について
（事務局）

－資料 5 説明

（吉川座長）

- ・ 資料 3 に関しまして、従業員数 300 人以上事業所数を教えてください。

（事務局）

- ・ 藤沢市は、平成 13 年から平成 18 年で 35 件から 38 件に 3 件増加しました。横須賀市は 25 件から 24 件へと減っています。

（吉川座長）

- ・ わかりました。これらの事業所は、いわば横須賀市のベスト 20 事業所といえるかと思うのですが、どのような産業が多いのでしょうか。
- ・ 後でもよいのですが教えてください。また、事務局はベスト 20 ぐらいまでスラスラと答えられるようにしておいた方が良いでしょう。感覚でわからないことは、数字でいくら頑張ってもわからないのです。「あの工場とあの工場が該当する」、「半数くらいは訪問したことがある」という感覚がなければ、地域の経済を理解できません。数字は勿論大切ですが、感覚で現場を知ることも重要です。

- ・ 後でかまいませんので、ベスト 10 くらいは教えてください。

(事務局)

- ・ はい。
- 資料 2、資料 3、資料 4、資料 5 について、引き続き説明

(吉川座長)

- ・ ありがとうございます。委員の先生方、ご意見はありますか。

(木村(武)委員)

- ・ 資料 5 について、前回特別委員会で出た意見には名前も記載されていましたが、今回伏せられています。なぜでしょうか。理由を教えてください。

(事務局)

- ・ 前回の特別委員会で出たご意見等に対して、総合計画審議会（共生分科会）での検討にあたって出てきたご意見を、今度は特別委員会にもお出ししています。その際に、審議会委員のお名前は出ませんでした。
- ・ 特別委員会は名前を記載し、審議会は記名せずに出しましたので、整合性をとる意味で、双方とも記載しないかたちに合わせることにしました。

(木村(武)委員)

- ・ 今後は、このように対応するということですね。わかりました。

(吉川座長)

- ・ 特別委員会から出たプログラムとは何か、というご質問についてですが、プログラムやプロジェクト、計画そのもの意味ではないと思います。この柱にはこういったプログラムが記載され、具体的にはこのような事業があります、といったように、全体の政策や体系、言葉との関係を示せばよいことだと思います。そのような説明がきちんとされていれば、このような質問は出てこないでしょう。
- ・ 以前から申し上げておりますが、厳密に申し上げますと、言葉は、定義をせずに使ってはいけません。一つひとつの用語にも、カッコ書きで説明を加える必要があります。

(小林委員)

- ・ 特別委員会と審議会のとの関係について、復習として教えていただきたいと思います。

(事務局)

- ・ 基本計画は、最終的には議会の議決を経て決定致します。なお、議会における特別委員会は、常任委員会と異なり、この基本計画のみを議論する委員会です。
- ・ 一方、審議会は、市長が諮問します。市長は、審議会からの答申を受けて、基本計画の原案を作り、これを議会が議決をすることになります。

- ・ 原案を議会の議決の場に急に出すのではなく、特別委員会の議論の経過を審議会にもご報告し、お互いに了解をしながら素案をつくっていければ、齟齬がなく最終的に良いものができると考えております。特別委員会と審議会のやりとりは、市長側と議会側のキャッチボールとご理解ください。

(小林委員)

- ・ わかりました。
- ・ 審議会では、資料5でいただいたような特別委員会からのご意見について、答申に全てしっかり検討していく必要があるのでしょうか。それとも、あくまでも参考意見と受け止めればよいのでしょうか。その辺の軽重が理解できないでいます。

(事務局)

- ・ 審議会は、議会からの質問にきっちり答えるという性質のものではございませんし、議会と違った意見も出てくると思います。
- ・ しかし議会としては、できれば、ここにおられる専門家の皆様のご意見や市民の感覚としての意見を、最終的な議決に生かしたいと考えております。議会の疑問にお答えいただければ、最終的な議決の参考になると思われます。

(吉川座長)

- ・ 議論の結果の最終的な決定権は議会にあるということですね。そして、議会からの質問に、審議会がすべて答えるという必要はないけれども、答えた方がよいということかと思えます。ご質問やご意見は適宜お聞きしていくということによいですね。
- ・ わかりました、ありがとうございます。
- ・ 他に何かございますか。
- ・ それでは、審議に入りたいと思います。重点プログラムについて事務局にご説明いただいて審議すればよいですね。ご説明をお願いします。

2. 審議事項

(事務局)

—資料6、資料7、参考資料、参考資料2、参考資料3について説明

(吉川座長)

- ・ 特別委員会において、プログラムとは何かというご質問をいただきましたが、この資料を示せば理解していただけたと思います。資料のそれぞれの言葉の意味も間違っていないのでご安心下さい。
- ・ 他の先生方、ご質問はありませんか。
- ・ 参考資料2の計画策定スケジュールはわかりやすいですね。いつ頃までに何を行わなくてはいけないのか、よく理解できます。
- ・ ありがとうございます。それでは、続けてご説明下さい。

(事務局)

—資料6、資料7について説明

(吉川座長)

- 資料6の2ページに示された「横須賀が直面する危機」に関して、人口減少、少子高齢化、財政の問題とあります。これは確かにそうですね。
- この右に続いている「戦略」は目的ですか、手段ですか。どちらかによって、考え方や計画の練り方が全く違ってくるはずですよ。

(事務局)

- 基本構想という大きな目的から見れば、手段だと思います。重点プログラム内で見れば、施策体系全体の中から重点的に取り組むものを示す目的になると思います。人に着目した戦略も、上位計画から見れば手段であり、枠内でみれば目的だと思います。

(吉川座長)

- 政策という目標に対して、手段がとられます。最終的に何をやれば目標は達成できるのかという議論をしたいのですから、手段を明確にした方が良いと思います。
- 前回も申し上げましたが、目的と手段が混ざった表現は、非常にわかりにくいです。論理を明確にし、こういう目的があるのだから実行する必要がある、市としてはこの手段をとることが出来ると考えている、と明確にしていかななくてはなりません。つまり、第一に、目的と手段を明確に2つにきちんと分ける必要があります。
- 次に「横須賀が直面する危機」として3点記載されています。人口減少には、いくつかの原因があると思いますが、どのように原因を分けることができるでしょうか。

(事務局)

- 自然減と社会減に分かれます。自然減に関しては、出生もこれ以上増えそうにありませんし、高齢者が増えています。また、社会減に関しては、転出超過は徐々に減っておりますが、総体として自然減を補うほどではございませんので、人口が減少しています。

(吉川座長)

- 自然減については、あまりコントロールはできるものではありませんが、社会減については、住みやすくするなど環境を整備することで改善できます。この時代でも、人口が増加している自治体もあるのですから、政策として手を打つことができるのです。このように分けて考えれば、政策として手を打てるものが何か、ということも明確になると思います。
- また、社会減の理由を考えますと、一言で言うと産業です。本市の産業が斜陽産業でしたら、夕張市のようになってしまいます。斜陽産業としないためには、新産業の育成や誘致は効果があると思います。これを戦略とするように書かなければ、意味がわかりません。

- ・ 平たく申し上げますと、ガソリン自動車は斜陽産業ですし、これからそういった企業を興そうと考える人は誰もいないでしょう。観光産業だけに取り組んでいても、自治体の財政が破綻してしまいます。
- ・ そうなると、以前ご紹介申し上げたデトロイト市（米国）のように、人口が減り、空きビルが増える状態になっていきます。これは極端な例かもしれませんが、新しい産業を興し育てていくことにより、市の財政は非常に豊かになります。これを手段としなくては、重点プログラムの内容が読みとれません。
- ・ 他の先生方も、ご意見をどうぞ。

（木村（忠）委員）

- ・ 参考資料3に「ポリシー」とあります。どのような意味でしょうか。また、重点プログラムの位置づけ内の「政策レベル」とはどのような関係があるのでしょうか。
- ・ また、「リソース」とありますが、インターネットで調べて、ようやく資源とわかりました。このように横文字で書く必要はあるのでしょうか。
- ・ 資料7には「ニード」という表現もあります。誰からの欲求なのでしょう。主語がなく、言葉だけが書かれているように思います。

（事務局）

- ・ 今回、「ポリシー」「プログラム」「プロジェクト」と整理しております。このうち、ポリシーは、「主要な行政課題に対応するための行政活動の基本的方針」です。

（木村（忠）委員）

- ・ つまり、方針という意味で使っているということですね。それでしたら、わかりにくくしなくても、「方針」と書けばよいのではないのでしょうか。
- ・ これまで日本で使われてこなかった概念を表現したり、特殊なものごとを表す時に横文字を使うことは理解できます。しかし、たとえば、「まちづくりの基本戦略」の次に、方針があることはよくわかりますが、「ポリシー」と書かれていると、新しい概念を表現したいのかなと思ってしまいました。
- ・ また、使う場合は、市民がわかるように使っていただきたいと思います。たとえば、「ニード」は、市民がわかるのかなと疑問に思います。
- ・ こういったものが多いので、日本語で表現できるものはそうしていただきたいです。

（事務局）

- ・ なるべく横文字を使わないようにとのご指摘は、議会からも受けております。また、使う場合にも、注釈をつけるなどわかりやすくしなくてはいけないと認識しています。
- ・ 「ポリシー」という言葉はご指摘の通り、大変わかりにくいと思います。市民にご説明をする時には、この資料は使わないと思いますが、使う場合は、説明を加えたいと思います。
- ・ もう1点、「リソース」につきましては、私たちの議論でも、わかりづらいという意見がありました。しかし、「資源」と表現しますと、人を資源と表現するのかという

問題があったため、あえて注釈をつけリソースとしました。良い言葉があれば、変えたいのですが、基本的には、横須賀市にある資源をフルに使って、政策を推進しなくてはいけないという思いがありまして、このようになりました。

- また、「ニード」に関しては、「市民意見」や「要望」という表現で十分かと思いませんので検討します。

(木村(忠)委員)

- そのように書いて頂けるとありがたいです。よろしくお願いいたします。

(小林委員)

- 資料6の2ページの「7つの都市力」が整理され、3ページの「根底にある基本的な戦略」へ続いています。表現は、「戦略」よりも「対応」のほうが適切ではないでしょうか。
- 「根底にある基本的な戦略」は3つの戦略がありますが、最初から3つに分けるのではなく、まずは、変化に応じた柔軟な対応力が必要だと思います。計画の活性化をもたらす上で必要ではないでしょうか。
- 資料7の1ページ「横須賀市が取り組むべき課題」について、「水」に関する記述がないことに不安を覚えています。横須賀市は主に相模川・酒匂川から取水しておりますが、施設も老朽化しています。相当積極的に取り組まなければ、災害面も含めて将来的に問題があるかと思えます。
- その他に、上水道、下水道の整備に関しまして、今後も、安全性の向上などに向けて、レベルを上げることに積極的に取り組むことが必要かと思えます。

(事務局)

- 委員からのご指摘は、「7つの都市力」の中の「4 安全・安心」に、水という言葉が表現されていない、ということでしょうか。

(小林委員)

- 水なくして都市の存続はあり得ないですし、言葉があるというだけではなく、表現としてもっと強調すべきではないかと思い、指摘をさせていただきました。

(木村(忠)委員)

- 水道に関しては、上下水道局が10カ年計画(マスタープラン)を策定しておりますので、表現をあわせたほうが良いと思います。

(事務局)

- 水に関しましては、上下水道部局にも確認を致しまして、課題としてあげておくべきか検討をします。
- 先ほど小林委員から発言いただいた、「根底にある戦略」に関するご指摘について、もう少し詳しく確認をさせていただければと思います。

(小林委員)

- ・ 「根底にある基本的な戦略」の中に、戦略1～3と分けて書いてありますが、導入部として「時代の変化に対応していけるような柔軟性のある対応力」と記載してはいかがでしょうか。
- ・ 後半に体制の記載はありますが、取り組み方についての記載がありません。この導入部に総論として入れてから、戦略1から3を取組む必要があるという流れがほしいと思いました。

(事務局)

- ・ 計画は11年と長期間ですので、柔軟な対応力をご指摘の通り必要と思います。また、議会からも同じようにご指摘をいただいております。
- ・ 事務局としましては、11年間の長きにわたる計画には、人を生かすという考え方が最も大事なのではないかと考え、「根底にある基本的な戦略」と表現しました。都市の活力は人であり、一つは子どもを育てること、もう一つは現にいる沢山の能力を持つ高齢者を生かすこと、そしてもう一つが、それらの人を惹きつけるまちの魅力をつくることと考え、戦略の1から3をたてました。
- ・ また、以前は、高齢者や子どもを生かす取り組みを施策としておりましたが、市として人を生かすという姿勢が根底にあるべきと考えました。例えば環境の分野で人を生かしてリバーウォッチングに取り組んだ場合も、意識の高い高齢者などが活躍できれば、高齢者を生かす施策とも捉えられます。そういう想いがあり、「根底にある」と表現しました。
- ・ つまり、あらゆる事業において、「人を生かす」という視点をもつことが必要と考え、これを戦略に位置付けました。
- ・ ご指摘いただいた柔軟性について、この戦略への結びつけ方がまだ整理し切れておりませんので、頂いたご意見を参考に検討したいと思います。

(吉川委員)

- ・ 資料7「7つの都市力」の「1 子どもを育てる環境」とあり、「市民意見・ニード」欄に「待機児童の解消」が示されています。確かに子どもを育てる環境に関する施策ではありますが、大きな意味での経済政策でもあります。
- ・ 待機児童が1人減る、つまり、母親が就労できれば、この地域の所得が400万円増えるのです。これは大きいと思います。自治体には地方税も入ります。
- ・ 先日いただいた資料では、待機児童数は約100人とあったように記憶しています。

(事務局)

- ・ 年度により異なるのですが、50人程度と認識しています。

(吉川委員)

- ・ そうしますと、2億円の所得が増えることになります。2億円の企業誘致を行うことは結構大変ですが、待機児童を減らすことで、2億円増やすことができるのであれば、

経済政策としてもすぐやらなくてはなりません。

- ・ 保育所の設置費用を先日調べましたが、高くありませんでしたし、私が経済政策担当の立場にあったら早速取り組むと思います。
- ・ 先日、政府の新成長戦略に対して意見を求められる機会がありました。そこでは、2020年までに待機児童を0（ゼロ）とありましたが、瞬時に行うべきと指摘しました。
- ・ 待機児童数の減少は、経済政策です。同額の所得を生み出す企業の誘致は、相当に大変です。記載場所は現状で良いですが、経済施策としても認識していただきたい。

（事務局）

- ・ 待機児童の解消は、保育園の定員を増やす方向で対応したいと考えております。

（吉川座長）

- ・ 現状の施設数でも、人（保育士）を増やすことができれば、すぐ1～2割解消できます。ぜひ行ってください。

（高須委員）

- ・ 資料6と資料7に、「市内交通網の充実」や「広域的な道路網と鉄道網の整備」とあります。道路網の整備は理解できますが、鉄道網に関して具体的な計画や構想があるのでしょうか。

（事務局）

- ・ 同じご指摘を議会からも頂きました。これは、修正する予定です。
- ・ 横須賀市は、JRと京急と鉄道輸送力増強会議を毎年開催し、鉄道輸送力の増強に向けて本市から鉄道事業者へ要望を行っています。この働きかけを示したのですが、「鉄道輸送力の増強」と書き換えたいと考えております。

（木村（武）委員）

- ・ 前回、木村委員から、JRと京急の東京への到着時間の差に関する指摘がありました。是非、事業者（JR）に要望して頂きたいと思います。
- ・ 次に、資料6「横須賀市が取り組むべき課題」にある「心のバリアフリーの推進」は抽象的でわかりにくいです。どのようなものでしょうか。

（事務局）

- ・ いわゆる施設整備を伴うバリアフリー化と異なる、ソフト面の取り組みです。点字ブロックに自転車を置かないといったものなど、「思いやり」と言い換えることができる部分もあると思います。

（木村（武）委員）

- ・ 資料6の3ページ「根底にある基本的な戦略」の戦略2は、高齢者の活力を生かすとあります。ここでお示しいただいている「高齢者の経験が資源となって生かされる」

というのは具体的にどのようなものでしょうか。

- ・ 実際には、実施計画の中で具体的な施策が示されるとと思いますが、高齢者が横須賀市に住んで良かったと思うことができ、また他地域からは横須賀は住みやすいのだなど思ってもらえるまちが必要だと思います。

(事務局)

- ・ 例えば、町内の高齢者を中心とした防犯活動は全市的な取組みになりつつありますし、教育分野では、地域の人たちが教育の現場で持てる知識を提供頂いている事例もあります。また、商工会議所と実施しているキャリア教育事業（中学生自分発見プロジェクト）では、中学生に働くことについての意義などを教えていますが、地域の産業界や働いている父親が協力してくれることもあります。様々な分野でこうした取組みを積極的にやりたいと思っています。

(青木委員)

- ・ 資料6のフロー図は、一目見たときに、理解しにくいと思いました。
- ・ 「根底にある基本的な戦略」が重点プログラムの下から矢線で伸びていますが、これらの関係性がパッと見ただけではわかりません。この資料が、こういった会議でしか使わないのであればよいのですが、市民の目にふれる場で使うのであれば、繋がりをわかりやすくするとよいと思いました。先ほどの事務局の口頭でのご説明はとてもわかりやすかったので、そういった説明を加えていただきたいです。

(事務局)

- ・ ご指摘のとおり、根底にある基本的な戦略が重点プログラムにダイレクトに繋がるものではございません。根底にある基本的な戦略は、今回の基本計画全体に渡る考え方であり、水道事業も経済の事業にも繋がるものです。ところが、この図は、直接重点プログラムへ繋がるように見えます。矢印の示し方などを考えたいと思います。

(高山委員)

- ・ 資料6の2ページでは、横須賀には沢山のリソースがあると認識されていますが、3ページの根底にある基本的な戦略では、使うリソースは人に限られています。半島の持つ魅力などもあるはずですが、戦略で示すリソースが人だけで良いのかと思いました。
- ・ 例えば、2ページ「7つの都市力」「3自然環境」「6利便性」に関係し、横須賀の持つ魅力を人々がイメージする際には、半島がゆえに利便性は悪い、半島が故に自然があふれているなどありますし、半島の魅力はリソース、宝といえるのではないのでしょうか。
- ・ 参考資料3の「ポリシー」「プログラム」「プロジェクト」という3つのPは、方針と戦略と戦術と訳せると思います。
- ・ 「まちづくりの基本戦略」の1～3と「根底にある基本的な戦略」の1～3は、リンクしてないと思いますが、ともに3項目で戦略と位置付けられています。誤解を招か

ないよう、言葉を変えるなど工夫が必要と思いました。

(事務局)

- ・ リソースについては、ご指摘のとおり、自然環境や半島ならではの一体感のなどがあると思うのですが、その中でも最も重要ですべての政策に共通するものは、人（ヒト）であると捉えました。

(高山委員)

- ・ 人を否定しているのではなく、人がいなければ成り立たないことも理解しております。ただし、2ページでは、横須賀のセールスポイントである半島なども含めリソースと捉えているので、3ページで人だけに集約されると、2ページは一体何だったのかなと思ってしまいます。
- ・ 例えば、根底にある基本の戦略の中に、今言われたような言葉を入れるなど、2ページから3ページの流れの中で、人を取り上げたことが理解できるような説明があってもいいのかなと思いました。決して否定しているわけではありません。

(事務局)

- ・ 今のご指摘を踏まえますと、2ページの「使えるリソースは何か」の部分を「すべての（政策に）共通するリソースは何か」という表現に置き換えれば、理解しやすくなるのかと思いました。様々なリソースの中から、全政策に共通するリソース「人」が出てきたという流れを、わかりやすく表現できるよう工夫します。

(高山委員)

- ・ そのようにうまく表現できると自然と理解できると思います。

(加藤委員)

- ・ まちなか居住の推進についてご説明ください。まちなかばかり整備されると困ります。

(事務局)

- ・ まちなか居住とは、都市計画マスタープランに示された市の基本的な考え方です。人口減少社会において効率的に都市整備を進めるため、主要鉄道駅や地域で言えばバス路線の沿線の中心地などに、都市機能を集約させる方針のことで。

(加藤委員)

- ・ 駅やバス停に機能を集約するのですか。

(事務局)

- ・ 東地域には鉄道駅がありますが、西地域はありませんので、主にバスターミナルなどを中心地に位置付けています。

(加藤委員)

- そこに住宅などを整備するということですか。

(事務局)

- 基本的に都市機能を分散させないようにするという大きな方針はありますが、特定の都市機能の集約まで考えておりません。何か建て替えがある時には、そういったことを考えようという基本的な考え方です。

(高山委員)

- 私も西地区に住んでおります。まちなか居住に関連しないかもしれませんが、前回、西部地区を、アーバンリゾートとして整備するというお話がありました。風光明媚な観光資源と農業などを連携させていくということだったかと思います。
- 整備された農業や漁業と観光が一体となり、相模湾や富士山、江ノ島も見えるといったようにするためには、手つかずの自然を残すだけでなく、リゾートとして、人と金も入れて整備する必要があると思います。西部地区の住民としては、自然をそのまま残すだけでは、原生林に戻るような印象を受けてしまいます。
- 資料7の話とはずれてしまいますが、アーバンリゾートを目指すには、人と金も使っていたきたいと思います。

(原田委員)

- 横須賀を住みやすいまちにするためには、安全・安心が大切です。警察によれば、青少年の覚醒剤の汚染も進んでおり、海岸や公園にたむろしている若者には覚醒剤などを使う人も多いとのことでした。警察と横須賀市では、治安に対してどのような連携があるのでしょうか。

(事務局)

- 市役所内に市民安全部が新設され、防犯の窓口になっています。

(原田委員)

- 横須賀の次代を担う若い人たちが覚醒剤に侵されては大変ですので、しっかり対応して頂きたいと思います。
- もう一点は、資料7の「横須賀市が取り組むべき課題」に関連し、大型自然災害の体制整備について、具体的な方向性はお持ちでしょうか。

(事務局)

- 市民安全部が、災害時の初動体制や事前・事後の対処など、人員体制なども含めて対処しています。

(原田委員)

- 最近、台風も大型化しており、自然災害で大きな被害が出ています。昨年も三浦半

島では台風で大きな被害がでました。こうした災害に関し具体的な対策はありますか。

(事務局)

- ・ 現在、具体的な施策は、書き込みの作業を進めておりますが、港湾部などに確認致します。大規模災害に対するハード整備という方針は、現時点ではなかったと思います。

(原田委員)

- ・ 港湾部とお話しましたが、計画はあるものの、財政難で事業は対応できないとのことでした。被災後の整備は迅速だと思うのですが、被害のないうちにしっかり整備しておくことも、計画では重要と思います。

(吉川座長)

- ・ 今のご意見は、5月20と24日に、第4章、第5章として議論できると思います。
- ・ 本日もいくつかご指摘がありましたので、事務局は、庁内にフィードバックいただくなどにより、ご検討頂ければと思います。
- ・ 本日は第3章の議論で、次回は第4、第5章です。
- ・ 委員の先生方は、議事録が届くと思いますので、不足を追加し、事務局へ戻していただければと思います。

(加藤委員)

- ・ 事前に資料を読む時間がほしいので、できれば1週間前に送っていただきたいのですが。

(吉川座長)

- ・ 4～5日前には届いていると思いますが、事務局では、どのようなスケジュールで送っていただいていますか。

(事務局)

- ・ 議事録の確認に時間を要しますが、最低でも3日前、できれば5日前に届けるようにしています。

(吉川座長)

- ・ 議事録は時間がかかるのはわかりますので、その他と別送してはいかがでしょうか。

(事務局)

- ・ 議事録の発言内容を確認させていただいた後、対応表を作成している状況です。
- ・ ご指摘を踏まえ、なるべく早く送るよういたします。どうしても遅くなってしまう場合は、座長にお話いただいたように、別々に発送するなどの対応をいたします。

(吉川座長)

- 中間段階の資料でもよいと思います。委員のみなさんは、おおよその状況や、どんな感じなのかなどを知りたいということだと思います。

(事務局)

- 本日、頂いたご意見は、庁内プロジェクトチームと事務局で確認をして、3次素案に反映します。3次素案は、6月下旬の市民会議開催後に策定作業をしますので、7月の総合計画審議会でお示しする予定です。
- 次回は、2次素案として、施策の詳細を記載したものをお示しする予定ですので、出来るだけ早く見て頂けるようにいたします。
- 次回及び次々回の開催については、5月20日(木)13:00~15:00、5月24日(月)15:00~17:00です。

(以上)